

第44期 富士見市民大学

開講式

&

記念講演 帯津良一氏

～若者がうらやましがる

老人になってやろう～

第1部 開校式

開催日	令和元年 6月12日(土)
開催時間	午後 1時～1時半
会場	鶴瀬コミュニティセンターホール

6月5日(土)午後1時より三上監事の司会で、鶴瀬コミュニティセンターホールを会場に開講式が開催された。



瀬戸理事長

蔓延防止が出されている中、三密にならないように細心の警戒をしながら実施されました。

来賓に山口教育長、中田鶴瀬公民館長をお迎えし、まず、瀬戸理事長より受講生の皆さんへの祝辞がありました。

富士見市民大学は、1977(昭和54)年創設以来、第44期の今期まで市民大学として成熟してきたといえます。

2006(平成18)年、教育基本法の改正により生涯学習の見直しが行われ、誰でも、いつでも、どこでも学べるという立派な理念があります。



人格を磨くことで人生100年時代に、どんな公共施設でも生き生きと学んでいる市民がいます。その学びの成果を人材バンク、富士見市民大学の場に還元してもらえたらありがたい。

次に来賓を代表して山口教育長にご祝辞をいただきました。

富士見市民大学が開設された時は、ご自身が中学3年生の頃で感慨深い。

現在はコロナとの闘いの中で、富士見市民大学が学びを止めず、続けてきたことに敬意を表したい。

学校教育では、コロナ禍に3カ月の休業をした結果、全国的に精神的に不安定、不登校が増えるなど子どもたちに心の傷が見られる。

日常的な仲間との学び、スポーツ、遊びがいかに大切か、継続を大事にしてきた富士見市民大学のさらなる充実を祈念しています。



山口教育長

その後、各講座の担当理事・監事の紹介、鶴瀬公民館事務局担当職員の駒木さんの紹介がありました。



瀬戸理事長とご来賓（教育長、公民館）

第2部 記念講演

公開講演会

演題 若者がうらやましがる老人になってやろう

講師 帯津 良一先生

講演に先立って瀬戸理事長より挨拶と帯津先生の紹介がありました。

コロナ禍の中、万全の体制で本日を迎えることができた。昨年2月予定された帯津先生の講演がコロナにより延期され、待ち望まれた本日の開催を先生には快くお引き受けいただきました。

帯津先生はホリスティック医学の第一人者で、気功・太極拳を通じ、自然治癒力、生命力を引き出そうと西洋医学から軸足を変えてきました。

今回の演題の「若者がうらやましがる老人になってやろう」は2018年刊行の先生のご本の題名から頂きました。

人生の節目には標語がほしくなるもので「おめおめ生きてやろう」または「ぬくぬくと生きてやろう」など老人向けの人生訓を読んできた中では、先生の本の題名は老人の生、生命の根源、死をしっかりと捉えて魅力的に輝いていました。九鬼周造「いきの構造」に通じるものがある。



講演

1. 細菌類との共生と自然免疫力を考える

先生は日頃マスクをされず、患者を診る診察室でもしません。なぜなら細菌もガイアの一員だからどこかで生き続け、他の生物と住み分け続けている。福岡伸一氏やヒポクラテスが言うように、人には自然免疫力があるから西洋医学一辺倒では人間を丸ごと見ることができない。外科医として食道癌の手術を担当してきたが、西洋医学の限界を感じてきた。そこで、5年ぐらい中国に往来し、中国医学の陰陽を学び、その後、気功のできる病院を設立した。

2. 養生訓に至る

- ・貝原益軒 養生訓 人生の幸せは後半にあり
- ・白隠禅位 呼吸法 虚空となじむ
- ・佐藤一斎 儒学者 道を楽しむ、善を楽しむ

先生の不養生訓

食べ物…好きなものを少量食べ、過食は脾胃を汚す

酒は天のご褒美

経済… 日銭を稼ぎ、心おきなく晩酌を楽しむ

健康… 脳梗塞、認知症を遠ざける、股関節を衰えさせない、命の健康（気功、太極拳を続ける）

生きがい…ホリスティック医学を形として作っていく

心のときめき…異性との出会い、コミュニケーション、一期一会

末期癌の患者に対し気持ちを開いてもらうためには、死への距離が近い自分にとって今日が最後だと思って生きる 今夜の晩酌を「最後の晚餐」と思い、楽しむ
青木新門氏（納棺夫日記作者）との話から



3. 若者にうらやましがられる老人になるために

- ・ダイナミズム 外出しない、人に会わないという「自粛」はよくない
胸に煮えたぎるものがないといけない、生命の躍動、
自己の力で自己を創造、ダーウイン 生命の進化
- ・ダンディズム 男女とも粋な生き方、垢抜けして張り、色気がある
引き際の美学
- ・凜として老いを生ききる
佐藤初女氏 弘前「森のイスキア」主宰
加島祥造氏 英文学者「あの世に一步先に行く、積極的な攻め」
池田あき子氏 哲学者「死とは何か」ソクラテス曰く人生は魂の世話を
さらにむこうを見る
立川談志氏 老化と死を認め統合し、あの世へ ホリスティックなアプローチによる医学

4. 結語

人生の幸せは後半にあり、攻めの養生と、凜とした生
ダイナミズムとダンディズムで生きる

質疑応答 なし

アンケート集計結果

回収 59枚 参加者 78人 回収率 76%

参加者合計 78人

	満足	普通	不満足	合計
講座内容	53	6	0	59
講師について	54	3	1	58
スタッフの対応	35	21	2	58
合 計	142	30	3	175

市民大学からのお知らせ	18
市民大学 HP	2
掲示板ポスター	16
お知り合いからのお誘い	8
その他 広報	6
その他	3
合 計	53

50以下	0
51～60	1
61～70	14
71以上	37
合 計	52

男	16
女	37
合 計	53

鶴瀬東	19
鶴瀬西	14
南畑	1
ふじみの東	2
ふじみの西	8
水谷東	0
みずほ台東	3
みずほ台東西	4
諏訪	1
渡戸	1
上沢	1
関沢	1



若者がうらやましがる老人になってやろう

著者： [帯津良一](#)

海竜社 (2017年12月8日発売)

★★★★☆ 4.00 本棚登録：15人 レビュー：3件

本棚に登録

Amazon詳細ページへ

ネットストア

楽天ブックス

BOOK・OFF Online

カーリル

購入ストアへ